

令和6年度

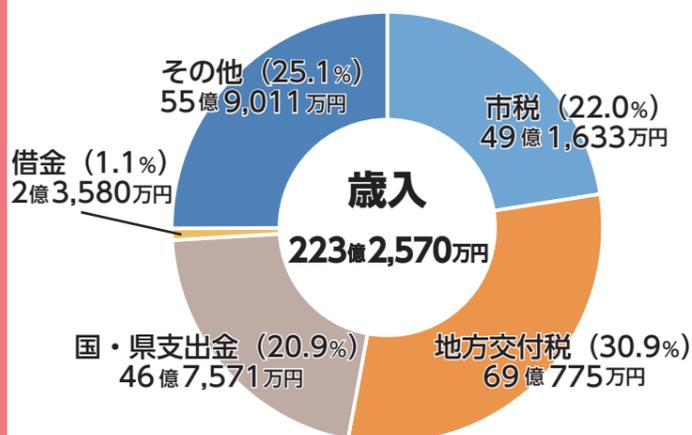
決算を報告します



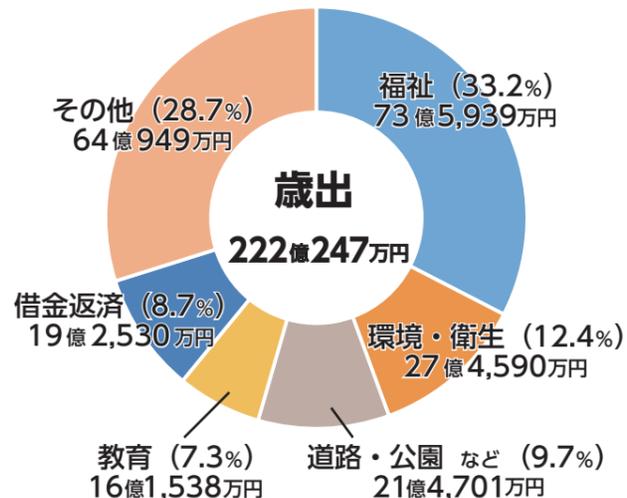
西脇市の令和6年度決算がまとまりましたので、一般会計、特別会計、企業会計の状況についてお知らせします。また、基金や市債の残高、健全化判断比率についても公表します。

▶問合せ 財政課（市役所内線3014）

一般会計歳入



一般会計歳出



収支のバランス

令和6年度一般会計では、歳入総額が223億2,570万円、歳出総額が222億247万円で、令和7年度へ繰り越すべき財源の5,110万円を差し引き、7,213万円の黒字となりました。

また、特別会計と企業会計の決算概要は次のとおりです。両会計は特定の事業を行うために、一般会計とは分けて設置されるものです。



▶会計別決算

会計	歳入	歳出	差し引き	
一般会計	223億2,570万円	222億247万円	1億2,323万円	
特別会計	国民健康保険	40億1,555万円	39億2,864万円	8,691万円
	学校給食センター	3億1,381万円	3億1,381万円	0万円
	老人保健施設	4億7,579万円	4億7,579万円	0万円
	公営墓地	665万円	665万円	0万円
	介護保険	50億5,642万円	49億7,618万円	8,024万円
	茜が丘宅地供給事業	527万円	527万円	0万円
	後期高齢者医療	7億6,472万円	7億4,217万円	2,255万円
	太陽光発電事業	6,343万円	6,343万円	0万円
企業会計	水道事業	10億4,514万円	10億4,555万円	△41万円
	下水道事業	17億4,331万円	17億3,887万円	444万円
	病院事業	85億2,104万円	91億589万円	△5億8,485万円

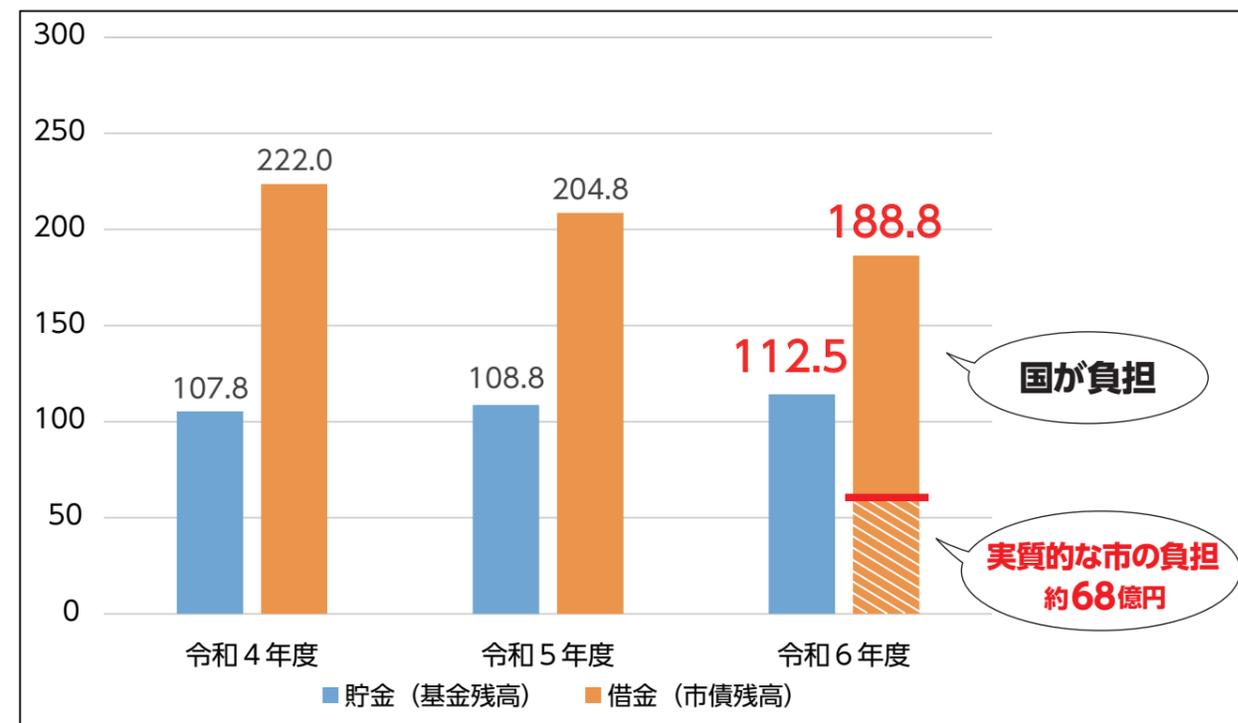
貯金と借金

令和6年度末の一般会計ベースの貯金（基金残高）は112億4,614万円となり、昨年度と比べて3億6,858万円増加しました。一方、借金（市債残高）は188億7,911万円となり、16億354万円減少しました。借金のうち、合併特例債および緊急防災・減災事業債の70%、臨時財政対策債の100%などが交付税措置されますので、**実質的な市の負担額は約68億円**となります。



なお、特別会計、企業会計を加えた市全体の貯金は125億4,580万円、借金は374億8,127万円です。

▶基金残高と市債残高（一般会計ベース／単位：億円）



財政状況

自治体の財政状況を示す「健全化判断比率」では、「健全段階」、「早期健全化段階」、「財政再生段階」の3段階に区分されます。

西脇市は令和6年度決算において、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率のいずれの指標も国が定める基準を下回り、前年度に引き続き「健全段階」となっています＝下表。

西脇市は**健全財政を維持**しています。

▶健全化判断比率

項目	令和6年度決算	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	13.05%	20.00%
連結実質赤字比率	—	18.05%	30.00%
実質公債費比率	10.3%	25.00%	35.00%
将来負担比率	—	350.00%	—

比率がマイナスになる場合、「—」で表記しています。



【指標の説明】

実質赤字比率…市の会計などの赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すもの。

連結実質赤字比率…全ての会計を合算し、市全体の赤字の程度を示すもの。

実質公債費比率…財政負担を見るために、借金の返済の大きさを指標化したもの。

将来負担比率…将来の負担を見るために、借金や今後支払いが見込まれる負債分を指標化したもの。